

第4回 大山崎町地域公共交通会議 会議要旨

日 時：平成24年10月2日（火） 午後2時30分 ～ 午後3時40分

会 場：大山崎町立中央公民館 別館3階 大研修室

出席者：

（委 員）江下 傳明 会長、有賀 正晃 副会長、庄 健介（代理出席：中島 智彦）、西山 哲、筒井 基好、近藤 智彦、本多 幸雄、蔦谷 重直、木村 彰夫、小西 和子、大東 五郎、國枝 滋樹、長谷川 央、山口 允己、吉田 友美、川合 宏和、中川 大、辻村 徳夫（代理出席：内藤 進）、小泉 満、加賀野 伸一、安田 久美子、小国 俊之、各委員

（事務局）企画財政課：斉藤 秀孝、本部 智子、中村 茂樹、江畑 博史

建設課：田村 聡

京都大学大学院：松原 光也

（傍 聴） 0人

会議次第

1. 開 会

2. 会長挨拶

3. 報 告

・コミュニティバス導入の凍結について

（会 長） 8月14日に京都府南部地域一帯に集中豪雨が発生し、大阪府を含め、近年にない大雨が降っておりました。大山崎町においても、この大雨において鏡田地域や茶屋前地域の、比較的地盤の低いところにおいて床上、床下浸水等の被害が発生しました。私としては治水対策が今一番最重点の取り組み事項であろうと判断させていただき、コミュニティバスの取り組みについては、当分の間、凍結させていただきます。

今後は、地域公共交通のあり方、そして既存の公共交通のあり方を皆さんと議論し、見直しをさせていただきながら、今の公共交通をいかに利用していかなければならないかという視点からご議論いただきたいと考え、今回の凍結について、皆様にご理解を得たいということでございます。

【主な意見は以下のとおり】

（委 員） 水害は水害として対応し、公共交通ということでコミュニティバスについても公約どおり論議し、実現していくという方向がしかるべき方向ではないかと思う。総合的に施

策を進めていくというのは、町行政の本来的な役割だと思っている。

この間、3回にわたってこの会議で熱心に議論してきた。それをなくして、突然凍結ということについて、会長自身がこの会議に展望が持てなくなったのではないかと思う。

私は町民の合意に基づき、役に立つコミュニティバスを実現するために、本会議の当初の目的と役割の位置付けを継続させていただきたいと思う。

(委員) 凍結ではなく、もうコミュニティバスはやめたらどうかというのが私の意見である。町民全員を対象にして公共交通を考えるのではなく、本当の交通弱者だけに限って、デマンドタクシーというシステムを使ったほうがいいのではないかと思う。

委員の中で、コミュニティバス導入に積極的に賛成せず、疑問を持っている住民がいるのに何でやるのか。それよりも、町としてもっと大事な水害対策や水道管の老朽対策にお金を使ってほしい。

(委員) みんないろいろと賛成、反対があるが、コミュニティバスについて、これは続けてほしいという声がたくさんあった場合、町長はその声を受けとめて、またコミュニティバスを走らせるような方向で考えていくということはないという考えでよいのか。

(会長) 今の町財政で優先順位を付けさせていただき、まず水害の対応にこれからお金が掛かるということで、コミュニティバス導入については凍結させていただく。ただ、コミュニティバス以外のところについてはこれから議論させていただきたいと考えている。

(委員) 水害対策に専念するというが、どういう内容でやるのかとか具体化しているのか。3回まで私ども会議に参加している。前回の会議で論点を3点にわたってまとめられたが、それをなしにするのか。現在ある公共交通を充実させるということで、この会議は終わりなのか。

(会長) これからの地域の公共交通のあり方については、今ある公共交通についてどうすれば今よりも利用促進ができるのか、こういうところを論点としてこの会議は進めさせていただきたい。コミュニティバスやデマンドタクシー等の導入についてはお金が掛かるが、今は、これからの治水対策等にお金が必要となるので、コミュニティバスやデマンドタクシーなどの多額のお金を必要とするものについては、凍結させていただく。

(委員) 第1回目の会議の説明で、設置目的は、住民の生活に必要な旅客移送の確保、あるいは旅客の利便の増進を図るといったようなことが掲げられていた。ただ、設置までの経過の中に、コミュニティバスに特化したような説明になっていた。今、この時点で、コミュニティバスについては凍結するが、当初の設置目的である地域公共交通会議の使命は引き続いて果たしていくと聞かせていただいているが、まずこれが正しいのか。

もう一点は、それであれば今後の議論について、先に制約を設けてしまうような発言は、今は控えたほうがいいと思う。

(会長) 今のご発言のとおりである。

(委員) 大山崎町はお年寄りの方々が非常に増えてきている。それから障害者の方、子供を連れて方もおられる。水害は水害としてよくわかるが、それは一つも具体化されてない。その段階で、凍結ということだけが先に来て、今まで積み重ねてきた議論は何だったのかということが非常に疑問である。

(委員) 現状のバスシステムについて、利用促進等を検討していくのであれば、町民にとってプラスになると思うので、事業者も含めて皆さんで議論するほうが良いと思う。基本的な方針については町民の皆さんが決めるほうが良いのでは。

また、コミュニティバスやオンデマンドなどの手段の話も出ているが、交通システムというのは場所に応じて適切に対応するべきであるので、総合的に考えていくべきである。

4. 議 題

今後の会議について

- ・事務局から、今後の会議の論点として、『路線バスについて』『将来の地域公共交通に係る町への提案』の2点を提案した。
- ・また、2点の論点についての今後のスケジュールについても事務局から説明した。

【主な意見は以下のとおり】

(委員) 十数年前だったと思うが、阪急バスが旧の西国街道の路線をもっと減便するという話があった。たしか、そのときに利用促進をやっている。そのときの利用促進施策がどう評価されていたかということを知りたい。

また、路線バスというのに括るにはまだ早計だと考えていて、もう少し他の選択肢があるという状況で議論に入りたいと思う。

(会長) 今のご意見だが、経過を調べ、次回報告できるようにさせていただきたい。

それから、もっと間口を広げて議論していただきたいという提案であるので、その提案については結構かと思う。

(委員) 会議設置当初の論点から路線バスに論点に移るのであれば、構成委員としても、このままでよいのか。

利用促進をするのであれば、住民から直接声を聞くタウンミーティングのような形でまず声を集めて、それから会議で議論する方が効率が良いのでは。

コミュニティバスの凍結というのは、コミュニティバスを導入するときよりも住民の話題に上っている。

お金が掛かるけどそれでも何とかしたいということで始めるのがコミュニティバスであり、その上で、お金が掛かるしやめといたらいいのではと思う人もいれば、お金掛かってもしっかりあったほうが良いと、いろんな意見があって、まとまって最後にコミュニティバスが走れると思っていた。

どうも、やりましょう、やめましょうだけの話になっており、そこら辺の整理をしてから、今後の会議の論点やスケジュールを決めていく必要があると思う。

(事務局) 今回、大きな治水対策事業を抜本的にやっていかなければならないという判断の中で、やむなく凍結させていただいた。しかし、大山崎町の地域公共交通をどうしていくのかとなったとき、路線バスをもっと身近なものとして乗っていただけるようなことをやっていく必要があるのではないかと考えている。

2つ目として、将来の大山崎町の公共交通のあるべき姿をご提案いただいて、その後、町政の中で判断し、進められるものはまちづくりに寄与していきたいと考えている。

(委員) 非常に初歩的な質問だが、地域公共交通会議というのは、例えばコミュニティバスのようなものを導入する場合に調整する会議と理解していた。そのときに構成メンバーは何か決まりがあるのか。

(委員) 構成メンバーは法律に基づいている。また、この会議は調整会議ではなく、地域の足をどう考えていこうかという会議であり、コミュニティバスのことだけでなく、路線バスが走っておれば、これをいかに活性化していくか、住民の使い勝手のよいものにしていくかということも考え、それでコミュニティバスや乗り合いタクシーなどを導入しようとか、いろんな手段を考え、地域により根づいた交通を考えていただくという会議である。

(委員) 路線バスについて言うが、走らせる、走らせないということについては、これは事業者の専権事項である。この場で、路線バスに乗りましょうと言っても、走らせませんと事業者が言った場合、これは何の話にもならない。現実味のない提案はしないでほしい。

(委員) 地域公共交通会議で、住民の考え方を聞いていただいたり、提案であったり、そういうことに関してこの会議でご議論、ご意見いただくということはいいいのではないかと理解している。町として、共に利用促進しながらお願いなり提案していくということについては、一定の範囲で問題ないと理解している。

(委員) 事業者の専権事項というお話だが、過去にも磁器カードやICカードのシステムを導入させていただいたときに、国、京都府、そしてこの大山崎町からもご支援、補助金をいただいたので、事業者が勝手にやりますよというようなスタンスは持っていない。

地域公共交通会議というのは、本来、既存の交通機関も含めての活性化っていうのが主のテーマと判断している。

今後、できること、できないことは当然出てくると思うが、ご意見等を頂いたら、できるだけ反映させていきたいとは思っている。

(委員) 私は、今後の地域公共交通会議での2点の新しい論点、この内容及び今後のスケジュールについては、意見としては反対である。主張するならば、今まで積み重ねてきた3回の議論の到達点を踏まえて、第5回会議を路線バスについての議論ということではなく、その上に基づいた議論をするべきだと思う。

5. 閉 会